

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	梅北 直昭
主な担当科目	作曲
2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	学生が主体的に学修に取り組み、継続的に学び続ける力を育成することを教育目標としています。学修意欲を引き出す授業設計を行い、学生一人ひとりの理解度や課題を的確に把握したうえで、適切な難易度とタイミングで学修機会を提供します。また、授業は教員から学生への一方的な伝達ではなく、相互的な学修の場であると捉えています。学生との対話や反応を通じて授業内容や方法を継続的に見直し、主体的な学修と成長を支える学修環境の構築を目指します。
2025年の教育に関 する自己評価	学生一人ひとりの力量や目標を的確に把握し、段階的かつ個別性を意識した指導を行うことで、学修意欲と到達度の向上に貢献しました。多様な背景を持つ学生に対しては、継続的な学修習慣の定着を促し、自律的に課題へ取り組む姿勢を育成しました。その結果、学生の表現力や思考力の向上が見られました。今後も教育効果を検証・改善し、より質の高い指導を実践していきます。
2025年のFD活動 に関する自己評価	コロナ禍を契機に進展したICT・オンライン教育を積極的に授業へ取り入れ、対面・オンライン双方の特性を活かした学習環境の整備に取り組みました。加えて、AI時代を見据え、知識の習得にとどまらず、学生の思考力・判断力・創造性を育成する授業設計を意識しています。今後もFD活動を通じて教育実践を継続的に見直し、教育の質のさらなる向上を目指していきます。
授業改善のために 取り入れた研修内容	次世代に向けた教育方法を検討する中で、AIやICTを活用し、学生の多様な学習ニーズに対応する柔軟な授業設計の重要性を再認識しました。学生の視点に立って学修状況や関心を的確に把握し、時代の変化に即した教育実践を行うことが求められます。従来の教育観と新しい技術の利点を適切に融合させながら、教育内容および指導方法の継続的な改善に取り組んでいきます。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2057 教員名:梅北 直昭

1)アンケート結果に対する所見

アンケート結果からは、課題の進度や理解度には個人差が見られ、学生一人ひとりの学修状況に応じた支援の必要性を改めて認識した。特に作曲やソルフェージュでは、基礎的な内容の定着度に差が生じやすいため、理解を確認しながら授業を進めることや、演習時間をより効果的に確保することが重要であると考えている。また、授業内容や課題の目的をより分かりやすく伝え、学生が学修の見通しを持ちながら取り組めるよう工夫を継続していく必要があると感じた。

2)要望への対応・改善方策

学生からの意見を踏まえ、授業で扱う内容や課題については、目的や到達目標をより明確に説明し、学生が学修の見通しを持ちやすい授業運営を心掛ける。また、授業内での演習と解説の時間配分を見直し、理解度に応じた補足説明や個別指導の充実を図る。課題に対する講評やフィードバックについても、学生が次の学修に生かせるよう、具体性と迅速性を意識して取り組んでいく。

3)今後の課題

学生の学力や経験の多様化が進む中で、それぞれの到達度に応じた指導方法をさらに工夫していく必要があると考えている。また、留学生を含めた多様な学生が安心して学修できる環境を整えるため、教材や授業資料の提示方法についても改善を継続していく。さらに、ICT や AI を効果的に活用した教材の開発や授業運営を進め、学生一人ひとりの理解度や学修状況に応じた支援の充実を図る。加えて、AI を適切に活用するための情報リテラシーや倫理的な視点についても授業の中で取り上げ、主体的かつ創造的な学修を支援できる授業づくりを目指していく。

以 上